

れきはく NEWS

Shimane Museum of Ancient Izumo

vol.45
2018.NOV

島根県立古代出雲歴史博物館の
旬な話題や情報をお届けします

CONTENTS

- 2 企画展「隠岐の祭礼と芸能」
- 4 展覧会通信
- 5 学芸員通信
- 6 れきはく通信
- 7 古代文化センター通信
- 8 藍に魅せられて…
お正月はれきはくへ!



美田八幡宮 田楽

牛突き

水若酢神社 陸奥山

玉若酢命神社 御霊会



御崎神社 だんじり舞

鳥後久見神社

武長祭

隠岐国分寺
蓮華会舞

隠岐の 祭礼と 芸能

企画展

平成30年12/21(金) - 平成31年2/18(月)



【島根県指定】鐵籠巻 面持神社蔵



天神祭礼図屏風 大阪歴史博物館蔵



【島根県指定有形民俗文化財】
原田神楽 神楽面
隠岐の島町蔵



平梯田中俵 狛犬 隠岐神社蔵



並河萬里が写真に達した
隠岐国分寺蓮華会舞(奇玉面)
しまね文化振興財団写真真文化事業委蔵

【島根県指定】太刀 銘 来国光 隠岐神社蔵





企画展

隠岐の祭礼と芸能

会期 平成30年12月21日(金)～平成31年2月18日(月)

◎開館時間／9:00～17:00

※12月21日(金)は企画展開会式のため、当展覧会会場のみ10:00からの開場となります。

◎会期中の休館日／1月15日(火)

会場 島根県立古代出雲歴史博物館 特別展示室

日本海に浮かぶ隠岐諸島は、古代より「隠岐国」と呼ばれた一つの国であり、国分寺や一宮（現水若酢神社、惣社（現玉若酢命神社）などで行われてきた大規模かつ荘厳な祭礼が今に伝えられています。中でも国の重要無形民俗文化財に指定されている「隠岐国分寺蓮華会舞」や「隠岐の田楽と庭の舞」（美田八幡宮・日吉神社）などは、古代や中世の芸能を考える上での多くの手がかりを今に伝えてくれます。

また、流人に関わる祭礼も隠岐ならではの特色と言えるでしょう。後鳥羽院の追悼を意識して行われてきた「牛突き」、元大坂町奉行所与力の流人が伝えた「だんじり舞」（御碕神社）など、隠岐の祭礼と芸能の魅力をあますことなくご紹介いたします。

◎展示内容

【プロローグ】秘められた巫女の祭儀

【第1章】隠岐の概観

— その文化的源流 —

【第2章】隠岐と後鳥羽院

— 祭礼にこめられた敬慕と追悼 —

【第3章】郷を挙げての壮大な祭り

— 中世的要素を色濃く伝える祭礼形態 —

【第4章】古風で厳粛な隠岐の神楽

— 祈祷の神楽と近世の社家 —

【第5章】流人が持ち伝えた神賑わいと芸能

— 蹴鞠・だんじり・歌舞伎芝居 —

【第6章】数々の受難からの復興

— 隠岐国分寺蓮華会舞の軌跡 —



■日本海上のランドマーク隠岐（写真提供／北海道地図株式会社）

島根半島の沖合40～80kmに浮かぶ隠岐は、独特な「大地の成り立ち」の上に「独自の生態系」と「人の営み」が育まれてきた。「ユネスコ世界ジオパーク」に認定された隠岐の特質の中から、「人の営み」、特に信仰に根ざした祭礼や民俗芸能にスポットを当てる。

■平櫛田中作の狛犬【海士町・隠岐神社蔵】

昭和14年（1939）の後鳥羽院崩御「七百年式年祭」に合わせ、後鳥羽院を祭神とする隠岐神社が創建された。「歌聖」に対し、皇族や政治家、そして当代を代表する歌人たちが献詠したほか、昭和初期を代表する文化の傑作が多数奉納された。





■【島根県無形民俗文化財】
 「日天」「月天」が和合する武良祭
 [隠岐の島町・中村地区]
 武良祭では多彩な芸能が奉納されるが、流籠馬もその一つ。その彩り豊かな出で立ちに目を奪われる。



■【島根県有形民俗文化財】
 原田神楽の神楽面 [隠岐の島町蔵]
 社家神楽の伝統を伝え継いできた原田の村上家旧蔵の神楽面。



■流人が隠岐に伝えた蹴鞠文化 [海士町・海士町教育委員会蔵]
 慶長14年(1609)に海士へ流されてきた飛鳥井雅賢は、代々和歌と蹴鞠の師範を務めた公家の出。配流中には、現地の村上九右衛門に蹴鞠の指南を行っており、村上家には蹴鞠の免状や装束、鞠が伝えられている。



◎主催 / 島根県立古代出雲歴史博物館
 島根県古代文化センター

こちらもおすすめ! 企画展関連催事

関連企画

第1回

参加無料(申込不要)

新春!蹴鞠 in 歴博

- 日時 / 1月13日(日) 10:30・13:30
※各回30分程度
- 会場 / 当館 風土記の庭 ※荒天時は館内
- 出演 / 蹴鞠保存会(京都市)

第2回

定員600名
 入場無料(要申込)

芸能公演! 隠岐国分寺蓮華会舞

- 日時 / 2月10日(日) 14:00~15:30
※13:30開場
- 会場 / 大社文化プレイスうらら館
だんだんホール
- 出演 / 隠岐国分寺蓮華会舞保存会
「眠り仏之舞」「獅子之舞」
「麦焼き之舞」「山神貴徳之舞」
「竜王之舞」「仏之舞」

関連講座

第1回

隠岐の牛突きと相撲

- 日時 / 12月23日(日) 13:30~16:00
- 講師 / 岩崎ことい 氏
(隠岐の島町教育委員会副主任文化財調査員)
品川 知彦
(古代出雲歴史博物館学芸企画課長)

第2回

隠岐のだんじりと流人

- 日時 / 1月27日(日) 13:30~16:00
- 講師 / 笹原 亮二 氏
(国立民族学博物館教授)
錦織 稔之
(古代出雲歴史博物館専門学芸員)

第3回

神仏習合の祭礼と 隠岐国分寺の歴史

- 日時 / 2月3日(日) 13:30~16:00
- 講師 / 鳥谷 芳雄
(古代出雲歴史博物館主任学芸員)
倉恒 康一
(古代文化センター主任研究員)

各講座
 とも

定員100名(参加無料)

- 会場 / 古代出雲歴史博物館 講義室

関連企画(第2回)および関連講座に
 参加をご希望の方は、
 下記の方法でお申込ください。

- お申し込み方法
電話・FAX・ホームページのイベント参加フォームのいずれかで事前にお申し込みください。
- お申し込み先
〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4
古代出雲歴史博物館
TEL.0853-53-8600 FAX.0853-53-5350
<https://www.izm.ed.jp>

【個人情報の取り扱いについて】
 この申し込みによって収集した個人情報は、島根県の規定に従って取り扱い、表記の関連イベント・講座開催の目的にのみ利用するほかは、法令に定めがある場合を除いて、第三者に提供することはありません。

企 画 展

古墳文化の珠玉

玉は語る出雲の煌めき

◎開催期間／平成31(2019)年4月26日(金)～6月17日(月)

■会期中の休館日／5月21日(火)

◎開催時間／9:00～18:00

◎会場／島根県立古代出雲歴史博物館 特別展示室

◎主催／島根県立古代出雲歴史博物館・島根県古代文化センター

日本史上のなかで古墳時代は最も「玉」が盛んに使われていた時代です。出雲地域では、濃緑色の碧玉や紅いメノウ、透明な水晶などの良質な石材を産出する松江市玉湯町の花仙山周辺で多くの玉作工房が設けられて玉が生産されました。このように出雲と古墳時代の玉は大変関係が深いことを平成21年の当館企画展「輝く出雲ブランド 古代出雲の玉作り」で広く情報発信してから既に10年となります。

古墳時代は、約400年間にわたる長い時代幅を持ちますが、その間には玉の持つ価値や使用方法も大きく変化します。また、それによって玉そのものの材質や好まれる形態も変化してきます。

今回の企画展では、このように古墳時代に使われた玉を広く紹介するとともに、生産の断絶期間を挟んで次の奈良・平安時代において、古墳時代とは異なる形で使われた玉を紹介します。



上野1号墳 勾玉3点

(島根県教育委員会所蔵)

古墳時代前期後半の美しい勾玉です。

紅いメノウ製勾玉は出雲産と考えられています

企画展はこれで終わりではありません。千年以上の長きにわたって日本人の服飾文化から消えていた玉は、江戸時代後期頃から再び人々の前に現れるのです。古墳時代的な「玉」が復権する近世後半から現代に至るまでの様子をとらえ、古墳文化の珠玉が現代社会にも顕現していることを紹介します。



▲桑原石ヶ元8号墳出土玉類等

(福岡市埋蔵文化財センター所蔵)

古墳時代後期の玉類です。メノウ、碧玉、水晶製品は出雲でつくられたものと考えられます

▼山持遺跡 4区出土玉類 (島根県教育委員会所蔵)

古墳時代中期前半の玉類です。様々な材質で作られています

▼坊主山1号墳出土玉類

(京都府立山城郷土資料館所蔵)

古墳時代後期初頭の玉類です。青や水色のガラス玉が美しい光を放ちます

▼国立銀行紙幣旧券20円

[素戔鳴尊・八岐大蛇]

1873(明治6)年

(独立行政法人 国立印刷局)

(お札と切手の博物館所蔵)

出雲神話が図案に取り込まれた紙幣です



発見時の状態を保つために

古代出雲歴史博物館の展示品で、はじめに皆様の目に入るのが、出雲大社境内遺跡から出土した宇豆柱うづましらです。平成12年に発見されたこの巨大柱は、地下水が豊富な土の中にあっただため、濡れた状態で当時の形が残されていました。

このような発掘調査で見つかる濡れた木製品をそのまま置いておくと、形を残す役割をしていた水分が蒸発するので、割れたり曲がったりヒビが入ったりします。これでは調査研究のための情報が失われ、展示品としても見た目が悪いので、変形させずに水分を取り除く作業「保存処理」が施されます。

宇豆柱の場合は、ポリエチレングリコール（PEG）という水や湯によく溶ける蠟のような物質を、大きなお風呂のような水槽の中で、少しずつ濃度を上げながら、宇豆柱に含まれている水分と入れ換えるように浸み込ませました。PEGは約60℃で溶けるので、水槽から上げると冷えて固まります。保存処理は約5年かけて行われました。

「保存処理が施され博物館に展示していれば、もう大丈夫！」と言いたいのですが、1点1点状態が違う文化財の保存なので「絶対大丈夫」と放って置くわけにはいきません。実際にPEGが浸み込んでいるのは木材が腐りかけている部分なので、中心に近い部分は生木が残っていて水分があります。この水分が乾いていく時に形が変わることがあります。また、PEGは、温度や湿度が上がると溶け出してしまいます。このような悪い変化をできるだけ早く発見するためには、日頃からケース越しに目配り気配りが必要で、毎月1回の休館日には、複数の学芸員が協力して点検をします。

普段はご覧いただくことができない、点検風景を少しだけ写真でご紹介します。

文化財は、様々な作業によって公開されていることを知っていただくと幸いです。



点検前に石の模型を退かし、終わったら元に戻します。

宇豆柱のメンテナンスの流れ

1 計測



保存処理の時に設置したピンとピンの間を測ってゆがみやヒビに変化がないかを確認する

2 撮影



写真を撮る

3 データ保存

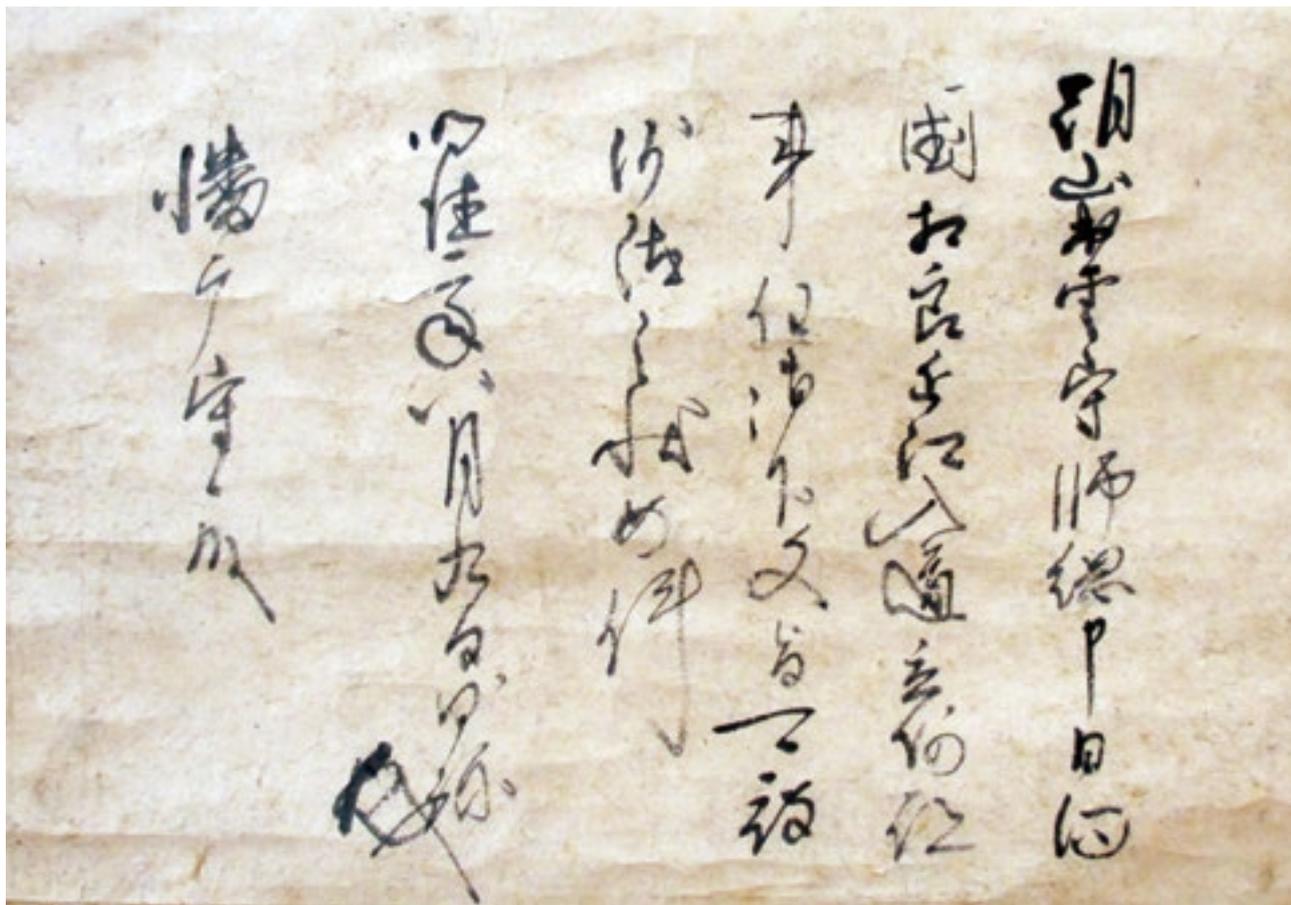


記録計から温度と湿度のデータを保存する

4 清掃



展示ケースを清掃する



明徳二年(1391)八月九日付、今川了俊達状(今川貞兼宛)

新収蔵品紹介

朝山氏の活躍を物語る史料

古代出雲歴史博物館 専門学芸員 岡 宏 三

古代出雲の有力氏族・勝部一族。特に出雲平野西部の朝山郷を拠点とした惣領家の朝山氏は、在国司(出雲国衛の在庁官人のトップ)として、出雲守護や出雲国造とともに広大な荘園を所有し、出雲国内の政治に重要な役割を果たしました。南北朝時代には一時的に備後国守護に任じられ、ついで京都に拠点を移して足利将軍の側近の一人となりました。

この史料は、明徳2年(1391)、もと南朝方だった相良近江入道立阿(前頼)の日向国内の所領を、将軍(3代義満)の命により朝山出雲守(師綱)に与えるよう、九州探題今川了俊が播磨守(今川貞兼)に通達したものです。当時今川了俊は九州平定にあたっていましたが、島津氏が服従せず、苦戦を強いられていました。義満から島津氏との交渉を命

じられた朝山師綱は、粘り強い交渉の末に帰参させることに成功します。将軍から信頼と期待を受けて所領を与えられた、朝山氏の絶頂期を伝えるものとして貴重な史料といえるでしょう。

師綱はまた、早くも30代で出家して梵灯庵と名乗り、「よろしき好士にて、世もてはやす」名高い連歌師としても活躍しました。しかし応永元年(1394)には、義満の不興を買ったのか、本領の朝山郷を将軍の直轄地として召し上げられてしまいました。

なおそれから約150年後、出家して日乗と名乗った子孫の朝山善茂も、足利義昭や織田信長に気に入られ、戦国大名の和睦交渉を命じられるなどユニークな活躍をしています。

島根県古代文化センターの情報発信事業・調査研究について

第6回古代歴史文化賞の決定

この賞は、島根県をはじめとする古代歴史文化にゆかりの深い奈良県、三重県、和歌山県、宮崎県の5県が連携し、古代歴史文化に関する優れた書籍を表彰するものです。6回目となる今年は、11月1日に帝国ホテル東京で賞の選定委員会が開催され、大賞1点、優秀作品賞4点が選ばれました。

大賞は犬飼隆氏の『儀式でうたうやまと歌 木簡に書き琴を奏でる』(埜書房)です。本書は、「和歌」成立以前「歌」の姿について具体的に明らかにしただけでなく、その過程について、東アジアのなかで日本の漢字文化がどのように成立したのかを踏まえて歴史的に考察しており、これらの点が高く評価されました。優秀作品賞には森下章司

氏の『古墳の古代史 東アジアのなかの日本』(筑摩書房)、及川智早氏の『日本神話はいかに描かれてきたか 近代国家が求めたイメージ』(新潮社)、寺前直人氏の『文明に抗した弥生の人びと』(吉川弘文館)、河内春人氏の『倭の五王 王位継承と五世紀の東アジア』(中央公論新社)が選ばれました。



平成30年度開始の新テーマ研究

古代文化センターでは、毎年島根の歴史文化に関する新たなテーマ研究に取り組んでいます。今回はそのうちの1つを紹介します。

●中世石見における在地領主の動向 (研究期間：平成30～32年度)

武士が各地で活躍した中世、益田市を中心に活躍した益田氏については、益田家文書として知られている約800通の中世文書の研究が進められており、また、それに関連する城館跡や港湾遺跡などが良く保存されており、中世社会の様子を探る格好の素材として、全国から注目が集まっています。

当センターは、平成26年度から3年間のテーマ研究で、益田氏のほか同じ御神本一族の三隅・福屋・周布氏を対象として調査研究を実施し、彼らが東アジアの海を舞台とする対外交渉にも大きく関わり、幅広く活動したことを明らかにしました。しかし、中世石見国についてより詳しく知るためには、他の大

名・領主との関わりにも視野を広げる必要があります。

今回のテーマ研究では、益田氏のライバルで津和野町を本拠とする吉見氏を主に取り上げ、

大内氏・毛利氏といった戦国大名や益田氏との関わりを、文献史学・考古学の両面から調査・研究していきます。依然、明らかになっていない吉見氏の実態に迫るとともに、中世石見国の政治・経済やその特色を明らかにすることをめざします。



三本松城跡と陶晴賢陣城跡
手前右が吉見氏の拠城三本松城。奥が吉見氏を攻めた陶晴賢の陣城跡。

■主担当者：専門研究員 目次謙一

藍に魅せられて…

古代出雲歴史博ボランティアスタッフの会には、現在89名の方が登録されています。当館に来館されるお客様に、博物館の楽しさや、島根の歴史・文化を分かりやすく説明し、魅力を高めていく役割を担っているのが展示解説・通訳ボランティアの皆さんです。

このほか、小中学生を対象とした勾玉づくりなどの体験学習補助や、博物館で開催されるイベントのお手伝い、生け花など、多くのボランティアの方々がさまざまな分野で活躍されています。

そんな中、藍染め体験で藍に触れるうちに、藍に魅了されたボランティアの方々が、日々研鑽し、当館のミュージアムショップで作品を販売するまでに至りました。当館には藍甕があり「藍を建て」ています。藍は生きているのでご機嫌をうかがいながら大事に育て扱っています。

「JAPAN BLUE」とよばれ、日本の伝統を象徴するカラーでもある藍色の品々を、ぜひミュージアムショップにてお求めいただけたら幸いです。使用するうちに色が落ち着き、独特の風合いが増す藍染めの魅力を是非お楽しみください。



2019

1.1

火

1.3

木

お正月はれきはくへ!

お正月三が日

時間 9:00~17:00
※最終入館は16:30まで

展示室 観覧無料

- 常設展だけでなく、企画展「隠岐の芸能と祭礼」も無料でご覧いただけます。

2019年も古代出雲歴史博物館を
よろしく願っています!



同時開催

れきはく新年まつり

ご親戚・ご友人も
お誘いあわせて、
どうぞ来館ください!

時間 10:00~15:00

歴博の庭園で、正月遊びを楽しもう!

庭園de正月遊び

- たこあげ ●羽つき ●コマまわしなど
- ※道具は無料で貸出いたします。



番内さんや神楽衣装を着ちゃおう!

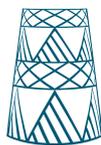
地域の伝統衣装を着付体験 無料

ミュージアムショップでお買い物いただいた方

先着30名様に粗品進呈

※内容は変更になる場合があります。また駐車場が込み合う場合があります。

どこ行く? れきはく!



島根県立古代出雲歴史博物館

Shimane Museum of Ancient Izumo

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4
TEL.0853-53-8600(代) FAX.0853-53-5350
[URL] <https://www.izm.ed.jp> [E-mail] contact@izm.ed.jp
開館時間/9:00~18:00(11月~2月は9:00~17:00)
休館日/第3火曜日(変更の場合有り)



マスコットキャラクター
雲太くん



発行/平成30年11月



マスコットキャラクター
出雲ちゃん